

一般社団法人 日本応用地質学会

令和4年度・2022 年度

第 5 回国際委員会・IAEG JAPAN 運営委員会 議事録(案)

日 時 : 2023 年 1 月 13 日(金) 15:00~17:30

場 所 : 国際航業株式会社 本社会議室、Zoom を用いた Web 会議(併用)

出席者 : 長谷川委員長、加地委員、徳楠委員、水野委員、百嶋委員、山下委員、山田幹事

委任状提出: 菊地副委員長、越谷委員、昆委員、百瀬委員、安田委員

陪席: 茶石顧問

議事:

1. 前回議事録(案)の確認

- ・前回(2022 年 10 月)に開催した委員会の議事録(案)を了承した。

2. 理事会報告

- ・令和4年度第*回理事会の内容について報告がなされた。

3. IAEG JAPAN 運営委員会活動について

(1) IAEG 事務連絡

1) IAEG Council Meeting 2022 関連

- ・IAEG 事務局から配信された議事録について確認した。
- ・JSEG 学会誌掲載用の参加報告が 12 月号に未掲載だったため、状況について JSEG 事務局長へ確認する。

2) IAEG Newsletter 関連(2022 No.3 発行&No.4 投稿)

- ・2022 No.3 の内容について説明がなされた。
- ・2022 No.4 掲載用の投稿原稿について説明がなされた。2023 No.1 の投稿へ向け、引き続き素材の収集準備を進める。

3) IAEG 役員改選(2026 年アジア地区副会長への立候補)について

- ・大学関係者にも国際委員の一員に加わって頂く方向で調整を進める。
※事前に学内の了解を取った上で 3 月の理事会に諮り、2023 年度 第 1 回委員会から参加して頂く。
- ・IAEG Japan NG 代表については、事前に理事会へ諮った上で今年 6 月の総会で正式に交代とする。
- ・上記交代の件は IAEG 事務局へも報告し、IAEG Connector E-News 等にも記事を掲載する。

4) 他 National Group との交流について

<アジア全体>

- ・2023 年~2026 年の 4 年間の任期で IAEG アジア地区副会長(VP)に就任した Ranjan 氏と Seo 教授、二人の国内在籍時の大学関係者にも関わってもらいつつ、今後の ARC 開催方針(特に第 16~18 回)について、ARC 開始時の提唱国である日本主導で協議を進めて行く必要がある。
- ・例えば、JSEG シンポジウム(6 月)や IAEG コングレス(9 月)の開催時に意見交換を行う場を JSEG でセッティングするなどして、Japan NG とアジア地区 VP との関係性をより深めていくことが望ましい。
- ・研究発表会(10 月)では、特別セッションの継続開催の検討と合わせて、アースサロンのようなスピンオフ企画も国際交流に有効なイベント開催方法の一つとして追加検討する。イベント参加者は、日・韓・ネパールに

加えて、中国・台湾・ASEAN 諸国も含めた他国・他 NG のエンジニア (JICA 従事者) や JSEG 関係者などを取り込んで行くことも検討する。

<韓国>

・JSEG 研究発表会 特別セッションでの Seo 教授 (KSEG 会長) による講演成功を受けて、2023 年以降もより魅力的な企画 (英語セッションの実施など) を通して海外 NG との交流を継続する中で、国際会員の増加にもつなげる。

<CHINESE TAIPEI>

・CHINESE TAIPEI Regional Group 代表から回答があり、YEGs のメンバー 2 名を窓口として交流を進めたいとのこと。まずはメール等で情報交換を行う。

5) IAEG アジア地域会議 (アジアシンポジウム (ARC)) について

・第 14 回 ARC (マレーシア) の開催時期について、Connector E-News では 2023 年開催予定のままとなっている。開催時期について、改めて関係者へ問い合わせしてみる。

・2025 年にはバングラデシュが開催国に立候補しており、中長期的な開催予定の見通しを立てておくことが望ましい。

(2) その他

1) 若手技術者を対象とした海外技術関連情報・知見の発信について (研究発表会_特別セッション開催)

・当日の宿題として、会長質問の文章化などの対応が残っている。
・2023 年以降も、より魅力的な企画 (英語セッションの実施など) を通して海外 NG との交流を継続する中で、国際会員の増加にもつなげる。

2) 学会誌 Bulletin 紹介

・編集委員会からの指摘事項 (取り急ぎ過去 3 回分程度) について、委員会内で共有を図る。

3) 大学機関等からの国際委員会への参加について

・若手の大学関係者 ⇒ 国際委員会、YEG にも加わってもらう方向で要請する。

4) ダイバーシティ推進特別委員会

・令和 4 年度第 6 回委員会の議事録について説明がなされた。オンラインアース・サロンをバーチャルオフィス「oVoice」を用いて開催した事例が紹介され、国際委員会でも海外アラカルト発表などで試行してみることにした。

5) 海外シンポジウム

・現在、学会 HP に掲載中の情報について説明がなされた。適宜内容を最新情報に更新した上で、JSEG_HP のトップページ及び学会 NL での周知を手配する。
・37th IGC (2024 年 8 月、韓国・釜山) または 14th ARC (2024 年秋、マレーシア) で、IAEG 総会が開催されるはずなので、引き続き情報収集を進める。

4. ホームページ関係

(1) JSEG 英語版 HP

・直近での新たな試みとして、国内災害情報の速報的な情報提供 (SNS) や写真集コーナー新設 (HP) (災害調査団 & 海外調査団 (ネパールと韓国はある?)) などの対応準備を進める。

・災害地質研究部会の部会長に対して、災害調査団報告の英語版ひな型 (写真 + コメント) を送付し、今後の掲載に向けてご協力頂けるとの回答ももらった。

・国際委員会としての学会 Facebook の活用方法については、引き続き検討する。

(2) JSEG 日本語版 HP

- ・国際委員会としての学会 Facebook の活用方法については、引き続き検討する。

5. 海外情報の共有

- ・「海外アラカルト」講演について今後も継続するため、まずは各委員から1月末までに候補者を選定する。
- ・「海外アラカルト」講演は、「oVoice」の試行も含めたダイバーシティ系との共催も検討する。

6. その他

- ・次回委員会(令和4年度_第6回)は、令和5年3月初旬に開催する方向で調整する。

以 上